

平成30年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第三小学校

校長名 高橋 博幸



教育目標

- ・ よく考え やりぬく子（重点目標）
- ・ 思いやりのある 心豊かな子
- ・ 進んで体を鍛え 健康な子

1 目指す特色ある学校像

教育目標を具現化するために、「世界に羽ばたき、貢献する日本人の育成」を合言葉に、本校の子供や実態を考慮して、「子どもの数は、命の数」をスローガンに、

- 家族のように温かく、子ども一人一人を真に大切に作る安心感のある学校
- よき伝統を残し、自分が学びたい学校
- 保護者、地域の方々から、信頼され、期待される学校

}]を指す。

そのための基本コンセプトとして、「伸ばす、耕す、鍛える、切磋琢磨」を位置付ける。

- ① 子どもの「知」を伸ばす
- ② 子どもの「心」を耕す
- ③ 子どもの「身体」を鍛える
- ④ 切磋琢磨し合う教職員

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

- ① 教育目標・経営方針のもと、全教職員が一丸となって全児童を育てる。
- ② 何よりも授業を大切にして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い「知」・「徳」・「体」のバランスのよい児童を育てる。
- ③ 教師が時代のニーズにあった研究・修養に励み自己を成長させ意識・行動改革を図る。

(2) 本年度の目標

- ① 子どもの「知」を伸ばす
 - ・ 児童の学習意欲を高めるための授業改善
 - ・ 家庭学習習慣の定着
 - ・ 読書活動の推進
- ② 子どもの「心」を耕す
 - ・ 組織的、系統的な生活指導の徹底
 - ・ 人権教育・道徳教育の充実
 - ・ 保護者・地域との連携
- ③ 子どもの「身体」を鍛える
 - ・ 日常的な体力づくりの推進
 - ・ 運動に親しむ資質や能力の育成
 - ・ 保健指導の充実
- ④ 切磋琢磨し合う教職員
 - ・ 校内研究・研修の充実
 - ・ OJTの推進
 - ・ 小・中連携教育、地域との連携の推進
- ⑤ 学校運営の充実

3 目標達成に向けての課題

- (1) 全教職員で全児童を育成するための組織体制や校務分掌にするために、組織を見直し、機能する分掌組織に改編し、教員一人が担う業務を明確にする必要がある。
- (2) 児童に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、確かな学力の向上のために教師の授業力や指導力の向上に取り組む必要がある。
- (3) すべての児童が明るく楽しい学校生活を送れる基盤を確立する必要がある。

4 経営の具体策

(1) 子どもの「知」を伸ばす

- ① 授業を計画的に行い、基礎・基本の習得とそれらを活用する力を育てる。ICTの活用やUDLの活用等を通して、児童の学習意欲を高める分かりやすい授業を実践する。
- ② 家庭と連携し、児童の基礎学力の向上を中心に家庭学習の習慣化を図る。
- ③ 読書活動を活性化し、総合的な読解力を高め、自ら学ぶ姿勢をもたせる。

(2) 子どもの「心」を耕す

- ① いじめ、暴力行為、万引き等の問題行動の根絶、不登校の解消を行い、すべての児童が明るく楽しい学校生活を送れる基盤を確立する。毎年のクラスがええを実施する。
- ② 人権感覚を高め、思いやりをもち、モラルやマナーを大切にできる児童を育てる。
- ③ 地域の諸行事や活動への参加と交流、学校・家庭・地域の連携を強化する。また、コミュニティスクール準備委員会を立ち上げる。

(3) 子どもの「身体」を鍛える

- ① 中休みや昼休み時間の校庭での遊びを徹底し、健康の保持増進や体力の向上を図る。
- ② 縄とびと鉄棒、持久走はカードを活用し、自己目標の明確化と充実感を醸成する。また、持久走週間・持久走大会を実施し、運動能力の向上を図る。
- ③ 毎日の健康観察、毎月の保健だより、年に1回の学校保健委員会を実施し、児童の健やかな成長を育む。

(4) 切磋琢磨し合う教職員

- ① 体育の校内研究等により授業改善を行うことで授業力や指導力の向上を目指す。
- ② 校内研修を発展させ、主幹・主任教諭の役割を明確にし、若手教員の育成を図る。また、特別支援教育の充実を推進する。
- ③ 地域の小・中学校や関係諸機関との連携を推進し、9年間の学びや生活の系統性を図るとともに、保護者・地域社会から信頼される教員を目指す。

(5) 学校運営の充実

- ① 校務分掌の組織を見直し、校内組織の活性化、主幹教諭や分掌主任の役割の明確化、機能する組織体制の構築を図る。
- ② 特別支援教育の充実を図り、隔週で校内委員会を開催するとともに、スクールカウンセラーや教育相談所、子供家庭支援センター等関係機関と連携した指導を推進する。

5 年度末のチェックポイント

- (1) 授業について、児童・保護者からの肯定的な回答が80%を目標とする。
- (2) 学校評価（生活面等）の各項目について、肯定的な回答が80%を目標とする。
- (3) 体力調査の結果について、平均値を超えることを目標とする。
- (4) 国や都の学力調査等について、平均値を超えることを目標とする。
- (5) 不登校児童数0人、不登校解消率100%を目標とする。

